

令和5年度 結果の分析及び今後の改善策(案)

(中間) 最終)

警固屋中学校区 校番8 学校名 警固屋中学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(今年度) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
***	未来に貢献できる「自分を創る」資質・能力を育むため主体的な学びを推進する。	「考える授業」づくりを進め、生徒の学力を向上させる。	9年生の実力試験の得点の地域平均との差は、国語(-1.4) 社会(+1.3) 数学(-4.7) 理科(-1.1) 英語(+0.6) であった。校内研究授業の実施をしており、その前後で研修も行った。 生徒アンケートでは、肯定的回答が7年58.8%、8年77.8%、9年83.3%であり、全体では73.3%であった。	警固屋学園スタイルの授業実践を継続しながら、学力補充(天風録・放課後指導)などをしていく。 主体的に学習に取り組めるよう学習の見通しを持たせたり、学習したことを振り返ったりして子どもの変容を自覚できる場面を取り入れる。 話し合いの必然性のある課題を設定したり、話を聞き合える関係性の構築を図ったりする。
		個の実態に応じた学力の定着を図る。	全国学力調査における無答率は、国語7.7%、数学1.54%、英語話すこと14.3%だった。英語は全国平均の無回答率も高い。タブレットの活用に関する生徒アンケートの肯定的評価は100%であった。 朝読書の時間に本を読む習慣を身につけることで、結果は100%であった。	無回答率が高い思考・判断・表現の問題に各教科で取り組む。 今後も読書貯金通帳を活用し、本を読む習慣を身につけさせ、読書を継続させていく。
**	だれもが安心・安全な環境で学べる学校風土を醸成する。	地域の課題を考え、地域に貢献する生徒を育成する。	各教科や事前指導などにおいて、被災された方の後悔の思いや中学生としてどのような役割を担うべきか考える機会があり、当事者意識を持ち取り組めた。	後半は小中合同の避難訓練があり、防災参観日も実施される。地域の中の役割や「自分の命は自分で守る」を意識させながら防災訓練を適切に実施する。
		いじめを許さず、互いに認め合うことができる集団をつくる。	自己肯定感についてのアンケートの肯定的な回答の割合は、7年69% 8年67% 9年92%であった。 全校生徒のいじめアンケート結果の肯定的評価は100%であった。	学年行事や学校行事を通して、お互いを評価しあえる活動や自分の役割を十分に達成させ充実感を味わうことができるようにしていく。 2学期はいじめアンケートも新しくなることで、より一層日々の生徒の様子や変化を見逃さないよう教員のアンテナを高くしていく。また保護者との信頼関係を構築できるよう連携を図る。
		基本的な生活習慣を定着させる。	生徒が設定したメディア使用時間の自己目標の達成率は、7年76% 8年66% 9年73%であった。	警中目標達成率は62%(7年80% 8年42% 9年63%)である。自分で決めた目標は比較的達成しやすいようである。ただし、どの学年も女子の数値が男子と比べて6%、9年女子は20%低い。学校全体で情報モラル教育を実施していく。
*	教職員が自らの意欲と能力を発揮できる教育環境の整備	在校等時間の縮減	4~9月の上半期における時間外在校等時間が45時間以内の教職員の割合は、昨年度の同時期と比較してやや改善した。	水曜日定時退校の励行。校務全般のスリム化や分掌や学年の業務分担の見直し及び効率化を図る。各自が仕事量の把握と時間を意識し、計画的に仕事を進めていけるよう互いに声を掛け合い、意識をさらに向上させる。
		生徒と向き合う時間の確保	「生徒と向き合う時間が確保されているか」という問いに対し、肯定的な回答をした教諭は、9名中7名である。	日々の課題への対応を、学年や分掌を中心により一層組織的なものにしていく。業務の効率化や会議等のスリム化を進める。

